

古代中世文学特殊講義I		単位数	2単位
授業コード	D1010	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	東城 敏毅		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	日本文学 I		
本授業の概要			
上代文学の学術論文を読み進めることにより、学術論文の構成方法、ならびに論証形式を身に付けると同時に、上代文学の研究手法・問題点等について議論する。さらに、現在学界において、どのような問題点が考察・検討されているのかを概観し、上代文学の諸問題について理解を深める。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	学術論文の読み方について修得できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	博士論文執筆に活用できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業内での学術論文演習 50%	1/2	
2	論文執筆 50%	1/2	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 授業ガイダンス			
事前学修			
事後学修			
2. 博士論文構成案の検討(1)			
事前学修	構成案作成		2時間
事後学修	構成案作成		2時間
3. 博士論文構成案の検討(2)			
事前学修	構成案作成		2時間
事後学修	構成案作成		2時間
4. 論文読解・討議(1)			
事前学修	論文読解		2時間
事後学修	論文読解		2時間
5. 論文読解・討議(2)			
事前学修	論文読解		2時間
事後学修	論文読解		2時間

6. 論文読解・討議 (3)		
事前学修	論文読解	2時間
事後学修	論文読解	2時間
7. 論文読解・討議 (4)		
事前学修	論文読解	2時間
事後学修	論文読解	2時間
8. 論文読解・討議 (5)		
事前学修	論文読解	2時間
事後学修	論文読解	2時間
9. 論文読解・討議 (6)		
事前学修	論文読解	2時間
事後学修	論文読解	2時間
10. 論文読解・討議 (7)		
事前学修	論文読解	2時間
事後学修	論文読解	2時間
11. 論文読解・討議 (8)		
事前学修	論文読解	2時間
事後学修	論文読解	2時間
12. 論文読解・討議 (9)		
事前学修	論文読解	2時間
事後学修	論文読解	2時間
13. 論文読解・討議 (10)		
事前学修	論文読解	2時間
事後学修	論文読解	2時間
14. 参考文献目録の作成		
事前学修	参考文献作成	2時間
事後学修	参考文献作成	2時間
15. 議論の総括		
事前学修	論文作成	2時間
事後学修	論文作成	2時間

試験等
学術論文提出
試験のフィードバックの方法
随時質問を受け付ける。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
石黒圭『文系研究者になる』（研究社、2021） 他、授業中に適宜指示する。 また、自らの研究テーマにおける参考文献を随時作成すること。
オフィスアワー
オフィスアワー：水曜日2時限 また質問等はメール等でも随時受け付ける
連絡先
tojyo@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究テーマにおける学術論文を数多く読みこなすこと。

古代中世文学特殊講義II		単位数	2単位
授業コード	D1015	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	東城 敏毅		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	日本文学 I		
本授業の概要			
上代文学の学術論文を読み進めることにより、学術論文の構成方法、ならびに論証形式を身に付けると同時に、上代文学の研究手法・問題点等について議論する。さらに、現在学界において、どのような問題点が考察・検討されているのかを概観し、上代文学の諸問題について理解を深める。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	学術論文の読み方について修得できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	博士論文執筆に活用できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業内での学術論文演習 50%	1/2	
2	論文執筆 50%	1/2	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 授業ガイダンス			
事前学修			
事後学修			
2. 博士論文目次案の検討(1)			
事前学修	目次案作成		2時間
事後学修	目次案作成		2時間
3. 博士論文目次案の検討(2)			
事前学修	目次案作成		2時間
事後学修	目次案作成		2時間
4. 論文読解・討議(1)			
事前学修	論文読解		2時間
事後学修	論文読解		2時間
5. 論文読解・討議(2)			
事前学修	論文読解		2時間
事後学修	論文読解		2時間

6. 論文読解・討議 (3)		
事前学修	論文読解	2時間
事後学修	論文読解	2時間
7. 論文読解・討議 (4)		
事前学修	論文読解	2時間
事後学修	論文読解	2時間
8. 論文読解・討議 (5)		
事前学修	論文読解	2時間
事後学修	論文読解	2時間
9. 論文読解・討議 (6)		
事前学修	論文読解	2時間
事後学修	論文読解	2時間
10. 論文読解・討議 (7)		
事前学修	論文読解	2時間
事後学修	論文読解	2時間
11. 論文読解・討議 (8)		
事前学修	論文読解	2時間
事後学修	論文読解	2時間
12. 論文読解・討議 (9)		
事前学修	論文読解	2時間
事後学修	論文読解	2時間
13. 論文読解・討議 (10)		
事前学修	論文読解	2時間
事後学修	論文読解	2時間
14. 参考文献目録の作成		
事前学修	参考文献作成	2時間
事後学修	参考文献作成	2時間
15. 議論の総括		
事前学修	論文作成	2時間
事後学修	論文作成	2時間

試験等
学術論文提出
試験のフィードバックの方法
随時質問を受け付ける。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
石黒圭『文系研究者になる』（研究社、2021） 他、授業中に適宜指示する。 また、自らの研究テーマにおける参考文献を随時作成すること。
オフィスアワー
オフィスアワー：水曜日2時限 また質問等はメール等でも随時受け付ける
連絡先
tojyo@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究テーマにおける学術論文を数多く読みこなすこと。

古代中世文学特殊講義III		単位数	2単位
授業コード	D1020	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	中井 賢一		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	日本文学 I		
本授業の概要			
平安文学における諸問題について、昨今の研究動向を踏まえた精緻な検証を基に、博士論文としてまとめる力を養う。主として、受講者の問題設定に即した演習を行うものとする。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	平安文学における諸問題について、その解決に向けた精緻、且つ清新な論文を執筆する力を身に付けることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	レポート 40%	1	
2	発表内容と質疑応答状況 40%	1	
3	復習シート10%	1	
4	口頭試問 10%	1	
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 講義概要の説明			
事前学修	(予習) 発表準備など	120分。	
事後学修	(復習) 追加調査など	120分。	
2. 平安文学全般の諸問題			
事前学修	(予習) 発表準備など	120分。	
事後学修	(復習) 追加調査など	120分。	
3. 発展的研究手法と先行研究・学界動向の理解 1			
事前学修	(予習) 発表準備など	120分。	
事後学修	(復習) 追加調査など	120分。	
4. 発展的研究手法と先行研究・学界動向の理解 2			
事前学修	(予習) 発表準備など	120分。	
事後学修	(復習) 追加調査など	120分。	
5. 発展的研究手法と先行研究・学界動向の理解 3			
事前学修	(予習) 発表準備など	120分。	
事後学修	(復習) 追加調査など	120分。	

6. 受講者による演習1		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分。
事後学修	(復習) 追加調査など	120分。
7. 受講者による演習2		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分。
事後学修	(復習) 追加調査など	120分。
8. 受講者による演習3		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分。
事後学修	(復習) 追加調査など	120分。
9. 受講者による演習4		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分。
事後学修	(復習) 追加調査など	120分。
10. 受講者による演習5		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分。
事後学修	(復習) 追加調査など	120分。
11. 受講者による演習6		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分。
事後学修	(復習) 追加調査など	120分。
12. 受講者による演習7		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分。
事後学修	(復習) 追加調査など	120分。
13. 受講者による演習8		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分。
事後学修	(復習) 追加調査など	120分。
14. 受講者による演習9		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分。
事後学修	(復習) 追加調査など	120分。
15. まとめ		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分。
事後学修	(復習) 追加調査など	120分。

試験等
学期末レポートを課す。
試験のフィードバックの方法
コメント表を出す。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に指示する。
オフィスアワー
金曜日3限（1・2期）
連絡先
k_nakai@m.ndsu.ac.jp
留意事項
状況に応じ、写本や古注釈、漢文資料を用いる。関係する古注釈・先行研究について、積極的に調べておくこと。授業の多くは演習形式となるため、各自、テーマ設定の上、あらかじめ発表資料を作成・配布すること。 なお、「Ⅲ」・「Ⅳ」と連続で履修することが望ましい。

古代中世文学特殊講義IV		単位数	2単位
授業コード	D1025	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	中井 賢一		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	日本文学 I		
本授業の概要			
平安文学における諸問題について、昨今の研究動向を踏まえた精緻な検証を基に、博士論文としてまとめる力を養う。主として、受講者の問題設定に即した演習を行うものとする。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	平安文学における諸問題について、その解決に向けた精緻、且つ清新な論文を執筆する力を身に付けることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	レポート 40%	1	
2	発表内容と質疑応答状況 40%	1	
3	復習シート10%	1	
4	口頭試問 10%	1	
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 講義概要の説明			
事前学修	(予習) 発表準備など		120分
事後学修	(復習) 追加調査など		120分
2. 平安期物語の諸問題(一部、鎌倉・室町期物語を含む)			
事前学修	(予習) 発表準備など		120分
事後学修	(復習) 追加調査など		120分
3. 発展的研究手法と先行研究・学界動向の理解(中古以外の学会の動向も含む) 1			
事前学修	(予習) 発表準備など		120分
事後学修	(復習) 追加調査など		120分
4. 発展的研究手法と先行研究・学界動向の理解(中古以外の学会の動向も含む) 2			
事前学修	(予習) 発表準備など		120分
事後学修	(復習) 追加調査など		120分
5. 発展的研究手法と先行研究・学界動向の理解(中古以外の学会の動向も含む) 3			
事前学修	(予習) 発表準備など		120分
事後学修	(復習) 追加調査など		120分

6. 受講者による演習1		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分
事後学修	(復習) 追加調査など	120分
7. 受講者による演習2		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分
事後学修	(復習) 追加調査など	120分
8. 受講者による演習3		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分
事後学修	(復習) 追加調査など	120分
9. 受講者による演習4		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分
事後学修	(復習) 追加調査など	120分
10. 受講者による演習5		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分
事後学修	(復習) 追加調査など	120分
11. 受講者による演習6		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分
事後学修	(復習) 追加調査など	120分
12. 受講者による演習7		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分
事後学修	(復習) 追加調査など	120分
13. 受講者による演習8		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分
事後学修	(復習) 追加調査など	120分
14. 受講者による演習9		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分
事後学修	(復習) 追加調査など	120分
15. まとめ		
事前学修	(予習) 発表準備など	120分
事後学修	(復習) 追加調査など	120分

試験等
学期末レポートを課す。
試験のフィードバックの方法
コメント表を出す。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に指示する。
オフィスアワー
金曜日3限（1・2期）
連絡先
k_nakai@m.ndsu.ac.jp
留意事項
状況に応じ、写本や古注釈、漢文資料を用いる。関係する古注釈・先行研究について、積極的に調べておくこと。授業の多くは演習形式となるため、各自、テーマ設定の上、あらかじめ発表資料を作成・配布すること。 なお、「Ⅲ」・「Ⅳ」と連続で履修することが望ましい。

古代中世文学特殊講義V		【単位数】	2単位
授業コード	D1030	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	阿部 泰郎		
時間割備考	9/9(火)～9/11(木)		
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	日本文学 I		
本授業の概要			
<p>仏教を受容した日本では、その象徴である仏像の聖性をめぐって、人間の苦悩や受難を、造られたモノとしての仏像が身代りとなって傷付くという霊験譚が、古代から中世にかけて広く流布していた。また仏像そのものが生ける如来や菩薩として造られ祀られる「生身」信仰が、普遍的な<聖なるもの>として出現する。その一方、仏法を滅し障碍しようとする“反仏法”の存在が、たとえば「天狗」という説話上の存在として中世に登場する。それはまた、「第六天魔王」の伝承のような、中世につくりだされたあらたな神話として展開する。そうした、中世日本の<聖なるもの>と反<聖なるもの>=<魔>の両義的な世界像とその系譜を、中世説話や文学作品、芸能など領域を越えて探究する。</p>			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	中世日本に生きた人々の宗教的心性とは如何なるもので、どのように形成されたのか、文学における精神的課題を理解することを通じて、中世人の世界像を認識することができる。	思考・判断・表現力	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	上記の問題に関する理解や認識が、受講者自身の主体的な研究対象において如何に意識され反映しているか、研究レポートや討議を通して評価する。	1	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1、生身と流血-傷つき血を流す仏像の伝承			
事前学修	[予習] 事前に「留意事項」の項に記載した課題に取り組むこと。各60分		
事後学修	[復習] 授業内で指示する。 各40分		
2、始まりのテキスト-中世世界の始原を語る書かれた伝承			
事前学修			
事後学修			
3、音声と音楽-未然を告げる声わざと楽器の霊異譚			
事前学修			
事後学修			
4、日本紀と未来記-中世日本の未来を示す野馬台詩と神話			
事前学修			
事後学修			
5、鬼と童子-退治される鬼と追放される童子			
事前学修			
事後学修			

6、変換する性-トランスジェンダーと取り替えの物語		
事前学修		
事後学修		
7、今は昔-説話という物語テキストの枠組みと媒介		
事前学修		
事後学修		
8、古えを鏡に懸ける物語-対話様式テキストの系譜		
事前学修		
事後学修		
9、経蔵と宝蔵-中世宮廷と寺院における知のテキストの集積		
事前学修		
事後学修		
10、六道の現前-仏教世界像の中世日本における再現化		
事前学修		
事後学修		
11、修行と参詣-行者の霊地斗擲から衆庶の巡礼へ		
事前学修		
事後学修		
12、縁起と霊験-古代寺院から霊験所への参詣感得へ		
事前学修		
事後学修		
13、浄土憧憬と往生-往生伝の生成と浄土の聖地		
事前学修		
事後学修		
14、天狗と魔界の誘惑-天狗説話の系譜と芸能化		
事前学修		
事後学修		
15、絵巻が象る世界像-社寺縁起絵巻の生み出す中世		
事前学修		
事後学修		

試験等
レポートによる評価（80%）、授業中のコメント（20%）
試験のフィードバックの方法
授業時間内に講評を行う。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
阿部泰郎『中世日本の世界像』名古屋大学出版会（2018）
オフィスアワー
授業の前後に質問を受け付ける。
連絡先
a19017@mail.ryukoku.ac.jp
留意事項
多数の参考文献（原典資料・研究書・論文等）を授業において提示するので、これらを読んだ上で自らの研究を検討すること。

古代中世文学課題研究I		単位数	2単位
授業コード	D1040	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	東城 敏毅		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	日本文学 I		
本授業の概要			
履修者の研究課題に集中的・焦点的に取り組む。また研究課題に対して、議論の徹底と研究の深化を図ることによって、博士論文作成に向けての討議を繰り返す。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	博士論文作成に必要な研究方法を修得できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	学会発表の方法について修得できる	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	博士論文執筆の方法について修得できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業内演習(発表演習・論文作成演習) 20%	1/2/3	
2	学会発表(プレ発表含) 30%	1/2/3	
3	論文執筆 50%	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 博士論文内容の検討			
事前学修	論文執筆		2時間
事後学修	論文執筆		2時間
2. 博士論文の方法論の検討			
事前学修	論文執筆		2時間
事後学修	論文執筆		2時間
3. 博士論文の構成の検討			
事前学修	論文執筆		2時間
事後学修	論文執筆		2時間
4. 博士論文目次案の作成と検討			
事前学修	論文執筆		2時間
事後学修	論文執筆		2時間
5. 発表・討議(1)			
事前学修	レジュメ作成		2時間
事後学修	レジュメ作成		2時間

6. 発表・討議 (2)		
事前学修	レジュメ作成	2時間
事後学修	レジュメ作成	2時間
7. 論文執筆・討議 (1)		
事前学修	論文執筆	2時間
事後学修	論文執筆	2時間
8. 論文執筆・討議 (2)		
事前学修	論文執筆	2時間
事後学修	論文執筆	2時間
9. 学会プレ発表・討議 (3)		
事前学修	レジュメ作成	2時間
事後学修	レジュメ作成	2時間
10. 学会プレ発表・討議 (4)		
事前学修	レジュメ作成	2時間
事後学修	レジュメ作成	2時間
11. 論文執筆・討議 (3)		
事前学修	論文執筆	2時間
事後学修	論文執筆	2時間
12. 論文執筆・討議 (4)		
事前学修	論文執筆	2時間
事後学修	論文執筆	2時間
13. 論文執筆・討議 (5)		
事前学修	論文執筆	2時間
事後学修	論文執筆	2時間
14. 議論の総括 (1)		
事前学修	論文執筆	2時間
事後学修	論文執筆	2時間
15. 議論の総括 (2)		
事前学修	論文執筆	2時間
事後学修	論文執筆	2時間

試験等 学術論文提出
試験のフィードバックの方法 随時質問を受け付ける。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
石黒圭『文系研究者になる』（研究社、2021） 他、授業中に適宜指示する。 また、自らの研究テーマにおける参考文献を随時作成すること。
オフィスアワー オフィスアワー：水曜日2時限 また質問等はメール等でも随時受け付ける
連絡先 tojyo@m.ndsu.ac.jp
留意事項 学術論文を数多く読みこなすこと。学会発表をこなすこと。論文執筆を積極的に進めること。

古代中世文学課題研究II		単位数	2単位
授業コード	D1045	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	東城 敏毅		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	古代中世文学		
本授業の概要			
履修者の研究課題に集中的・焦点的に取り組む。また研究課題に対して、議論の徹底と研究の深化を図ることによって、博士論文作成に向けての討議を繰り返す。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	博士論文作成に必要な研究方法を修得できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	学会発表の方法について修得できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	博士論文執筆の方法について修得できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業内演習(発表演習・論文作成演習) 20%	1/2/3	
2	学会発表(プレ発表含) 30%	1/2/3	
3	論文執筆 50%	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 博士論文内容の検討			
事前学修	論文執筆		2時間
事後学修	論文執筆		2時間
2. 博士論文の方法論の検討			
事前学修	論文執筆		2時間
事後学修	論文執筆		2時間
3. 博士論文の構成の検討			
事前学修	論文執筆		2時間
事後学修	論文執筆		2時間
4. 博士論文目次案の作成と検討			
事前学修	論文執筆		2時間
事後学修	論文執筆		2時間
5. 学会プレ発表・討議(1)			
事前学修	レジュメ作成		2時間
事後学修	レジュメ作成		2時間

6. 学会プレ発表・討議（2）		
事前学修	レジュメ作成	2時間
事後学修	レジュメ作成	2時間
7. 学会プレ発表・討議（3）		
事前学修	レジュメ作成	2時間
事後学修	レジュメ作成	2時間
8. 学会プレ発表・討議（4）		
事前学修	レジュメ作成	2時間
事後学修	レジュメ作成	2時間
9. 論文執筆・討議（1）		
事前学修	論文執筆	2時間
事後学修	論文執筆	2時間
10. 論文執筆・討議（2）		
事前学修	論文執筆	2時間
事後学修	論文執筆	2時間
11. 論文執筆・討議（3）		
事前学修	論文執筆	2時間
事後学修	論文執筆	2時間
12. 論文執筆・討議（4）		
事前学修	論文執筆	2時間
事後学修	論文執筆	2時間
13. 論文執筆・討議（5）		
事前学修	論文執筆	2時間
事後学修	論文執筆	2時間
14. 論文の総括（1）		
事前学修	論文執筆	2時間
事後学修	論文執筆	2時間
15. 論文の総括（2）		
事前学修	論文執筆	2時間
事後学修	論文執筆	2時間

試験等
学術論文提出
試験のフィードバックの方法
随時質問を受け付ける。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
石黒圭『文系研究者になる』（研究社、2021） 他、授業中に適宜指示する。 また、自らの研究テーマにおける参考文献を随時作成すること。
オフィスアワー
オフィスアワー：水曜日2時限 また質問等はメール等でも随時受け付ける
連絡先
tojyo@m.ndsu.ac.jp
留意事項
学術論文を数多く読みこなすこと。学会発表をこなすこと。論文執筆を積極的に進めること。

古代中世文学課題研究I		単位数	2単位
授業コード	D1050	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	中井 賢一		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	古代中世文学		
本授業の概要			
履修者の研究課題に集中的・焦点的に取り組む。また研究課題に対して、議論の徹底と研究の深化を図ることによって、博士論文作成に向けての討議を繰り返す。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	博士論文作成に必要な研究方法を修得できる。	知識・技能	
2	学会発表の方法について修得できる。	知識・技能/主体性	
3	博士論文執筆の方法について修得できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業内演習(発表演習・論文作成演習) 20%	1/2/3	
2	学会発表(プレ発表含) 30%	1/2	
3	論文執筆 50%	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 博士論文内容の検討			
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料準備・原稿準備など。		120分。
事後学修	追加調査など。		120分。
2. 博士論文の方法論の検討			
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料準備・原稿準備など。		120分。
事後学修	追加調査など。		120分。
3. 博士論文の構成の検討			
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料準備・原稿準備など。		120分。
事後学修	追加調査など。		120分。
4. 博士論文目次案の作成と検討			
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料準備・原稿準備など。		120分。
事後学修	追加調査など。		120分。
5. 発表・討議(1)			
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料準備・原稿準備など。		120分。
事後学修	追加調査など。		120分。

6. 発表・討議（2）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料準備・原稿準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。
7. 論文執筆・討議（1）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料準備・原稿準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。
8. 論文執筆・討議（2）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料準備・原稿準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。
9. 学会プレ発表・討議（3）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料準備・原稿準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。
10. 学会プレ発表・討議（4）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料準備・原稿準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。
11. 論文執筆・討議（3）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料準備・原稿準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。
12. 論文執筆・討議（4）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料準備・原稿準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。
13. 論文執筆・討議（5）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料準備・原稿準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。
14. 議論の総括（1）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料準備・原稿準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。
15. 議論の総括（2）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料準備・原稿準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。

古代中世文学課題研究II		単位数	2単位
授業コード	D1055	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	中井 賢一		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	日本文学 I		
本授業の概要			
履修者の研究課題に集中的・焦点的に取り組む。また研究課題に対して、議論の徹底と研究の深化を図ることによって、博士論文作成に向けての討議を繰り返す。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	博士論文作成に必要な研究方法を修得できる。	知識・技能	
2	学会発表の方法について修得できる。	知識・技能	
3	博士論文執筆の方法について修得できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業内演習(発表演習・論文作成演習) 20%	1/2/3	
2	学会発表(プレ発表含) 30%	1/2	
3	論文執筆 50%	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 博士論文内容の検討			
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料作成・発表準備など。		120分。
事後学修	追加調査など。		120分。
2. 博士論文の方法論の検討			
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料作成・発表準備など。		120分。
事後学修	追加調査など。		120分。
3. 博士論文の構成の検討			
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料作成・発表準備など。		120分。
事後学修	追加調査など。		120分。
4. 博士論文目次案の作成と検討			
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料作成・発表準備など。		120分。
事後学修	追加調査など。		120分。
5. 学会プレ発表・討議(1)			
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料作成・発表準備など。		120分。
事後学修	追加調査など。		120分。

6. 学会プレ発表・討議（2）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料作成・発表準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。
7. 学会プレ発表・討議（3）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料作成・発表準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。
8. 学会プレ発表・討議（4）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料作成・発表準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。
9. 論文執筆・討議（1）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料作成・発表準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。
10. 論文執筆・討議（2）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料作成・発表準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。
11. 論文執筆・討議（3）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料作成・発表準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。
12. 論文執筆・討議（4）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料作成・発表準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。
13. 論文執筆・討議（5）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料作成・発表準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。
14. 論文の総括（1）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料作成・発表準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。
15. 論文の総括（2）		
事前学修	各回の発表に際しての、適切な資料作成・発表準備など。	120分。
事後学修	追加調査など。	120分。

試験等 学期末レポートを課す。
試験のフィードバックの方法 コメント表を出す。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に適宜指示する。
オフィスアワー 金曜日3限（1・2期）
連絡先
留意事項 学術論文を数多く読みこなすこと。学会発表をこなすこと。論文執筆を積極的に進めること。

近世近代文学特殊講義I		【単位数	2単位
授業コード	D1110	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	山根 道公		
時間割備考			
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	近世近代文学		
本授業の概要			
日本近代文学にはキリスト教的、聖書的影響のある作品が多くあるが、そうした中から戦後の小説および詩を取り上げ、キリスト教的思想や聖書の象徴表現などに注目して分析、読解を行う作品研究を試みる。さらにそうした作品研究を踏まえて、作家研究にも取り組む。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	キリスト教的、聖書的主題をもつ日本近代文学の作品を分析する方法を修得できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業内活動と研究レポートにより評価する。	1	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 導入			
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2 時間	
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	
2. 日本近代文学におけるキリスト教の影響のある作品・作家の概説。（明治～戦前）			
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2 時間	
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	
3. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その1			
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2 時間	
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	
4. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その2			
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2 時間	
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	
5. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その3			
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2 時間	
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	

6. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その4		
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
7. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その5		
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
8. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その6		
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
9. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その7		
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
10. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その8		
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
11. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その1		
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
12. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その2		
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
13. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その3		
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
14. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その4		
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
15. まとめ		
事前学修	これまでの授業全体を踏まえて指摘を受けた点など主体的に問題意識をもって整理しておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間

試験等 レポート提出（課題の内容については授業中に指示する）
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に指示する。
オフィスアワー 金曜日 12:30-13:00。メールで質問、相談等は随時受け付ける。
連絡先 yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項 講義で取り上げる作品および指示する参考文献を予め読んでおくこと。

近世近代文学特殊講義II		単位数	2単位
授業コード	D1115	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	山根 道公		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	近世近代文学		
本授業の概要			
日本近代文学にはキリスト教的、聖書的影響のある作品が多くあるが、そうした中から戦後の小説および詩を取り上げ、キリスト教的思想や聖書の象徴表現などに注目して分析、読解を行う作品研究を試みる。さらにそうした作品研究を踏まえて、作家研究にも取り組む。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	キリスト教的、聖書的主題をもつ日本近代文学の作品を分析する方法を修得できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業内活動と研究レポートにより評価する。	1	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 導入			
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2 時間	
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	
2. 日本近代文学におけるキリスト教の影響のある作品・作家の概説。(戦後～)			
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2 時間	
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	
3. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その1			
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2 時間	
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	
4. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その2			
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2 時間	
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	
5. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その3			
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2 時間	
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	

6. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その4		
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
7. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その5		
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
8. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その6		
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
9. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その7		
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
10. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その8		
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
11. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その1		
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
12. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その2		
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
13. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その3		
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
14. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その4		
事前学修	事前に作品を読む予習をしておくこと。 主体的に問題意識をもって自分の作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
15. まとめ		
事前学修	これまでの授業全体を踏まえて指摘を受けた点など主体的に問題意識をもって整理しておくこと。	2時間
事後学修	講義後に、自分の作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間

試験等
レポート提出（課題の内容については授業中に指示する）
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に指示する。
オフィスアワー 金曜日 12:30-13:00。メールで質問、相談等は随時受け付ける。
連絡先 yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項 講義で取り上げる作品および指示する参考文献を予め読んでおくこと。

近世近代文学特殊講義V		単位数	2単位
授業コード	D1130	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	山根 知子		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	日本文学Ⅱ		
本授業の概要			
日本近代文学において児童文学作品を生み出した作家について、その作品の研究方法を学び、作家論としての作品の創作上の位置づけおよび作品研究について、実践的に取り組む。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本児童文学の歴史と作家の特質をつかむ。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	児童文学と小説・詩等の他のジャンルとの関係を認識しながら、日本児童文学の作品研究を実践することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	方法論を明確にした作品論を実践することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業中の課題：20%	1/2/3	
2	研究論文：80%	1/2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1 児童文学史の全体的な流れを把握し、研究計画を立てる。			
事前学修	シラバスを読み、自身の関心のある児童文学作品をめぐる問題意識を提示できるように準備する。	2時間	
事後学修	児童文学史についての全体像をつかみ、自身の研究課題と接点のある作家と作品の文献を読む。	2時間	
2 明治期の児童文学史			
事前学修	授業進行上必要となる資料収集と整理を行い、それらによる自身の考察の現状を授業で示すことができるように準備しておくこと。	2時間	
事後学修	授業時に受けた指導により自身の考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間	
3 明治末期から大正期前半までの児童文学史			
事前学修	授業進行上必要となる資料収集と整理を行い、それらによる自身の考察の現状を授業で示すことができるように準備しておくこと。	2時間	
事後学修	授業時に受けた指導により自身の考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間	
4 大正期後半の児童文学史			
事前学修	授業進行上必要となる資料収集と整理を行い、それらによる自身の考察の現状を授業で示すことができるように準備しておくこと。	2時間	
事後学修	授業時に受けた指導により自身の考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間	
5 昭和期戦前の児童文学史			
事前学修	授業進行上必要となる資料収集と整理を行い、それらによる自身の考察の現状を授業で示すことができるように準備しておくこと。	2時間	
事後学修	授業時に受けた指導により自身の考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間	

6 戦後の児童文学史		
事前学修	授業進行上必要となる資料収集と整理を行い、それらによる自身の考察の現状を授業で示すことができるように準備しておくこと。	2時間
事後学修	授業時に受けた指導により自身の考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
7 小説家の児童文学作品における作品論・作家論および研究方法		
事前学修	授業進行上必要となる資料収集と整理を行い、それらによる自身の考察の現状を授業で示すことができるように準備しておくこと。	2時間
事後学修	授業時に受けた指導により自身の考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
8 児童文学作家の児童文学作品における作品論・作家論および研究方法		
事前学修	授業進行上必要となる資料収集と整理を行い、それらによる自身の考察の現状を授業で示すことができるように準備しておくこと。	2時間
事後学修	授業時に受けた指導により自身の考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
9 履修者の選んだ児童文学作品の研究について方法論と研究内容について検討		
事前学修	授業進行上必要となる資料収集と整理を行い、それらによる自身の考察の現状を授業で示すことができるように準備しておくこと。	2時間
事後学修	授業時に受けた指導により自身の考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
10 履修者の研究発表と討論（1）		
事前学修	授業進行上必要となる資料収集と整理を行い、それらによる自身の考察の現状を授業で示すことができるように準備しておくこと。	2時間
事後学修	授業時に受けた指導により自身の考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
11 （1）の研究の改善・発展についての報告		
事前学修	授業進行上必要となる資料収集と整理を行い、それらによる自身の考察の現状を授業で示すことができるように準備しておくこと。	2時間
事後学修	授業時に受けた指導により自身の考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
12 履修者の研究発表と討論（2）		
事前学修	授業進行上必要となる資料収集と整理を行い、それらによる自身の考察の現状を授業で示すことができるように準備しておくこと。	2時間
事後学修	授業時に受けた指導により自身の考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
13 （2）の研究の改善・発展についての報告		
事前学修	授業進行上必要となる資料収集と整理を行い、それらによる自身の考察の現状を授業で示すことができるように準備しておくこと。	2時間
事後学修	授業時に受けた指導により自身の考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
14 履修者による研究発表の論文作成報告と検討（1）		
事前学修	授業進行上必要となる資料収集と整理を行い、それらによる自身の考察の現状を授業で示すことができるように準備しておくこと。	2時間
事後学修	授業時に受けた指導により自身の考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
15 履修者による研究発表の論文作成報告と検討（2）		
事前学修	授業進行上必要となる資料収集と整理を行い、それらによる自身の考察の現状を授業で示すことができるように準備しておくこと。	2時間
事後学修	授業時に受けた指導により自身の考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間

試験等 論文提出
試験のフィードバックの方法 授業中にフィードバックする。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に適宜紹介する。
オフィスアワー 火曜日2時限。メールでの質問・相談を随時受け付ける。面談希望の場合には、事前にメールでの予約を行うこと。
連絡先 t-yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項 自分の研究対象と関係する児童文学分野との接点を積極的に探究し、自身の研究内容や研究方法の幅を広げるように努力すること。

近世近代文学特殊講義VI		【単位数	2単位
授業コード	D1140	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	長原 しのぶ		
時間割備考			
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	日本文学Ⅱ		
本授業の概要			
日本近現代文学（サブカルチャー含む小説）の作品研究・作家研究を行う。文学を形成する背景である社会事情とメディア、執筆材料などを客観的な資料として用いた実践的な方法で考察と分析を行う。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	必要な資料の収集とその資料を用いた作品研究もしくは作家研究ができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	客観的で論理的な思考をもって研究論文を作成できる。	思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業内での演習（取り組みと発表）と最終レポート（論文）により総合的に評価する。 取り組み（提出課題含む）40%	1	
2	発表20%	1	
3	最終レポート（論文）40%	1/2	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1 ガイダンスと導入（翻案小説を例とする実践的方法について）			
事前学修	修士論文の概要と参考文献一覧をまとめた資料を準備する。	2時間	
事後学修	授業内で紹介した翻案小説を読み、特徴を整理する。	2時間	
2 昭和史の中の文学について			
事前学修	昭和に発表された小説を中心とした文学史の流れを調べる。	2時間	
事後学修	授業内で取り上げた作品を読み、文学史の中の位置づけをまとめる。	2時間	
3 現代史の中の文学について			
事前学修	平成・令和に発表された小説を中心とした文学史の流れを調べる。	2時間	
事後学修	授業内で取り上げた作品を読み、文学史の中の位置づけをまとめる。	2時間	
4 メディア史の中の文学について			
事前学修	授業内で取り上げる作品を読む。	2時間	
事後学修	授業内で取り上げた作品とメディア（新聞・映画・アニメ・漫画・演劇など）の関連性を調べる。	2時間	
5 作品研究の実例検証①			
事前学修	授業で取り上げる作品を読み、先行論を調査収集する。	2時間	
事後学修	先行論の研究手法と課題を整理し、まとめたものを提出する。	2時間	

6 作品研究の実例検証②		
事前学修	授業で取り上げる作品を読み、先行論を調査収集する。	2時間
事後学修	先行論の研究方法与課題を整理し、まとめたものを提出する。	2時間
7 作家研究の実例検証①		
事前学修	授業で取り上げる作家について、先行論を調査収集する。	2時間
事後学修	先行論の研究方法与課題を整理し、まとめたものを提出する。	2時間
8 作家研究の実例検証②		
事前学修	授業で取り上げる作家について、先行論を調査収集する。	2時間
事後学修	先行論の研究方法与課題を整理し、まとめたものを提出する。	2時間
9 客観的資料の収集と分析方法について		
事前学修	授業で取り上げる作品の選定と読解を行う。	2時間
事後学修	作品と作家分析に必要な情報の収集を行う。	2時間
10 作品分析と考察①		
事前学修	発表資料の作成をする。	2時間
事後学修	発表内容に対する意見と指摘を踏まえて資料を修正し、2回目の発表準備に繋げる。	2時間
11 作品分析と考察②		
事前学修	発表資料の作成をする。	2時間
事後学修	発表内容に対する意見と指摘を踏まえて資料を修正し、発表資料を提出する。	2時間
12 作品分析と考察③		
事前学修	取り上げる作品・作家の調査情報をまとめる。	2時間
事後学修	取り上げる作品・作家の情報調査で不十分な箇所を補い、発表資料の準備に繋げる。	2時間
13 作品分析と考察④		
事前学修	発表資料の作成をする。	2時間
事後学修	発表内容に対する意見と指摘を踏まえて資料を修正し、2回目の発表準備をする。	2時間
第 14 回：研究方法の総括		
事前学修	発表資料の作成をする。	2時間
事後学修	発表資料への意見と指摘を踏まえて、資料を修正する。	2時間
15 最終レポートの指導		
事前学修	発表資料をもとに論文を作成する。	2時間
事後学修	意見と指摘を踏まえて、論文を修正する。	2時間

試験等
期末レポート（論文）
試験のフィードバックの方法
各発表に対して毎時間コメントを述べるが、必要に応じて個別にフィードバックする。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に適宜指示する。
オフィスアワー
火曜日3限
連絡先
nagahara@m.ndsu.ac.jp
留意事項
近代以降の社会事情とメディア史を理解し、作品研究の幅を広げること。

近世近代文学特殊講義VII		単位数	2単位
授業コード	D1145	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	長原 しのぶ		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	日本文学Ⅱ		
本授業の概要			
日本近現代文学(サブカルチャー含む小説)の作品研究・作家研究を具体的な作品を用いて行う。受講生の論文作成に資する文献を読んでいく。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	取り上げた文献について理解した上で、作品研究もしくは作家研究ができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	学術論文の展開方法と立証方法が理解できる。	思考・判断・表現力/主体性	
3	客観的で論理的な思考をもって研究論文を作成できる。	思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業内での演習(取り組みと発表)と最終レポート(論文)により総合的に評価する。 取り組み(提出課題含む)40%	1/2	
2	発表20%	1/2	
3	最終レポート(論文)40%	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1 ガイダンスと導入(文学研究の方法論)			
事前学修	修士論文(または近世近代文学特殊講義Ⅵの最終レポート)の概要と参考文献一覧をまとめた資料を準備する。	2時間	
事後学修	授業内で紹介した文学研究の概要をまとめる。	2時間	
2 昭和の研究史			
事前学修	昭和の主たる文学研究の流れを調べる。	2時間	
事後学修	授業内で取り上げた先行論を読み、研究史の中の位置づけをまとめる。	2時間	
3 現代の研究史			
事前学修	平成・令和の主たる研究の流れを調べる。	2時間	
事後学修	授業内で取り上げた先行論を読み、研究史の中の位置づけをまとめる。	2時間	
4 文献研究①			
事前学修	授業内で取り上げる作品と先行論を読む。	2時間	
事後学修	先行論の特徴と課題を整理し、コメントにまとめて提出する。	2時間	
5 文献研究②			
事前学修	選定した作品と先行論を読み、発表資料を作成する。	2時間	
事後学修	意見と指摘をもとに発表資料を修正し、2回目の発表を準備する。	2時間	

6 文献研究③		
事前学修	2回目の発表資料作成を行う。	2時間
事後学修	意見と指摘をもとに発表資料を修正し、提出する。	2時間
7 文献研究④		
事前学修	授業で取り上げる作品と先行論を読む。	2時間
事後学修	先行論の特徴と課題を整理し、コメントにまとめて提出する。	2時間
8 作品研究の実例検証		
事前学修	授業で取り上げる作品を読む。	2時間
事後学修	先行論を調査し、作品読解を行う。	2時間
9 作家研究の実例検証		
事前学修	授業で取り上げる作家について先行論を調査する。	2時間
事後学修	先行論の特徴と課題を整理し、コメントにまとめて提出する。	2時間
10 作品分析と考察①		
事前学修	授業で取り上げる作品と先行論を読む。	2時間
事後学修	先行論を利用しながら作品の読解を行う。	2時間
11 作品分析と考察②		
事前学修	発表資料の作成を行う。	2時間
事後学修	意見と指摘をもとに発表資料を修正する。	2時間
12 作品分析と考察③		
事前学修	作品の選定と先行論の調査を行う。	2時間
事後学修	授業内の議論をもとに作品の読解を行う。	2時間
13 作品分析と考察④		
事前学修	発表資料を作成する。	2時間
事後学修	意見と指摘をもとに発表資料を修正する。	2時間
14 研究方法の総括		
事前学修	修正した発表資料を論文にする。	2時間
事後学修	意見と指摘をもとに論文内で不足する先行論の調査収集を行う。	2時間
15 最終レポートの指導		
事前学修	論文の修正を行う。	2時間
事後学修	意見と指摘をもとに論文の完成を進める。	

試験等 最終レポート（論文）
試験のフィードバックの方法 各発表に対して毎時間コメントを述べるが、必要に応じて個別にフィードバックする。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に適宜指示する。
オフィスアワー 火曜日4限
連絡先 nagahara@m.ndsu.ac.jp
留意事項 数多くの文献を読み、作品研究と作家研究の幅を広げること。

近世近代文学課題研究I		単位数	2単位
授業コード	D1150	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	長原 しのぶ		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	日本文学Ⅱ		
本授業の概要			
学生個人の主体的な問題意識や学生の希望する研究課題に指導教員が助言しながら、集中的、焦点的に取り組む研究の場である。課題に対して指導の徹底と研究の深化を図ることによって、博士論文作成の助言と指導を行う。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	博士論文の作成ができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	作成した論文等の達成度によって判断する。	1	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 博士論文作成計画 その1			
事前学修	計画書を作成する。	2時間	
事後学修	計画書の修正を行う。	2時間	
2. 博士論文作成計画 その2			
事前学修	計画書に沿った作家と作品の先行論ならびに参考資料を調査収集する。	2時間	
事後学修	先行論を組み入れた計画書を作成し、提出する。	2時間	
3. テキスト分析 その1			
事前学修	対象作品の読解を行い、発表資料を作成する。	2時間	
事後学修	意見と指摘をもとに発表資料を修正する。	2時間	
4. テキスト分析 その2			
事前学修	対象作品の読解を行い、発表資料を作成する。	2時間	
事後学修	意見と指摘をもとに発表資料を修正する。	2時間	
5. テキスト分析 その3			
事前学修	対象作品の読解を行い、発表資料を作成する。	2時間	
事後学修	意見と指摘をもとに発表資料を修正し、発表資料を提出する。	2時間	

6. 文献調査 その 1		
事前学修	対象作家と作品の先行論と参考資料の整理を行い、研究史を作成する。	2時間
事後学修	意見と指摘をもとに研究史を修正し、不足する先行論と参考資料を調査収集する。	2時間
7. 文献調査 その 2		
事前学修	対象作家と作品の先行論と参考資料の整理を行い、研究史を作成する。	2時間
事後学修	意見と指摘をもとに研究史を修正し、不足する先行論と参考資料を調査収集する。	2時間
8. 文献調査 その 3		
事前学修	対象作家と作品の先行論と参考資料の整理を行い、研究史を作成する。	2時間
事後学修	意見と指摘をもとに研究史を修正し、作成資料を提出する。	2時間
9. 論文作成 その 1		
事前学修	発表資料をもとに論文を作成する。	2時間
事後学修	意見と指摘をもとに論文を修正する。	2時間
10. 論文作成 その 2		
事前学修	発表資料をもとに論文を作成する。	2時間
事後学修	意見と指摘をもとに論文を修正する。	2時間
11. 論文作成 その 3		
事前学修	発表資料をもとに論文を作成する。	2時間
事後学修	意見と指摘をもとに論文を修正する。	2時間
12. 論文作成 その 4		
事前学修	発表資料をもとに論文を作成する。	2時間
事後学修	意見と指摘をもとに論文を修正する。	2時間
13. 論文作成 その 5		
事前学修	発表資料をもとに論文を作成する。	2時間
事後学修	意見と指摘をもとに論文を修正する。	2時間
14. 論文への評価・検討 その 1		
事前学修	修正した論文をまとめる。	2時間
事後学修	意見と指摘をもとにまとめた論文を修正する。	2時間
15. 論文への評価・検討 その 2 論文提出		
事前学修	修正した論文の課題をまとめる。	2時間
事後学修	課題についての意見と指摘をもとに論文を完成させ、提出する。	2時間

試験等 博士論文
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業内で適宜指示する。
オフィスアワー 火曜日3限
連絡先 nagahara@m.ndsu.ac.jp
留意事項 数多くの文献を読みこなすこと。

近世近代文学課題研究II		単位数	2単位
授業コード	D1155	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	長原 しのぶ		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	日本文学Ⅱ		
本授業の概要			
学生個人の主体的な問題意識や学生の希望する研究課題に、指導教員が助言しながら、集中的、焦点的に取り組む研究の場である。課題に対して、指導の徹底と研究の深化を図ることによって、博士論文作成の助言と指導を行う。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	博士論文の作成ができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	作成した論文等の達成度によって判断する。	1	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 博士論文作成計画の再検討 その1			
事前学修	計画書を再考し、発表資料として準備する。	2時間	
事後学修	質疑応答をもとに計画書を修正加筆する。	2時間	
2. 博士論文作成計画の再検討 その2			
事前学修	計画書をもとに先行論と参考資料の調査収集を行い、加えるべき資料の概要をまとめる。	2時間	
事後学修	質疑応答をもとに先行論と参考資料の更なる調査と収集を行う。 質疑応答をもとに計画書の更なる修正加筆を行う。	2時間	
3. テキスト分析の再検討 その1			
事前学修	研究論文に組み込む作品分析の発表資料(論文)を作成する。	2時間	
事後学修	質疑応答をもとに発表資料(論文)を修正加筆する。	2時間	
4. テキスト分析の再検討 その2			
事前学修	研究論文に組み込む作品分析の発表資料(論文)を作成する。	2時間	
事後学修	質疑応答をもとに発表資料(論文)を修正加筆する。	2時間	
5. テキスト分析の再検討 その3			
事前学修	研究論文に組み込む作品分析の発表資料(論文)を作成する。	2時間	
事後学修	質疑応答をもとに発表資料(論文)を修正加筆する。	2時間	

6. 文献の再調査 その 1		
事前学修	研究論文に組み込む先行論と参考資料の概要と一覧をまとめる。 加えるべき先行論と参考資料を調査収集する。	2時間
事後学修	質疑応答をもとに先行論と参考資料の精査, 整理を行う。 質疑応答をもとに加えるべき先行論と参考資料を調査収集する。	2時間
7. 文献の再調査 その 2		
事前学修	研究論文に組み込む先行論と参考資料の概要と一覧をまとめる。 加えるべき先行論と参考資料を調査収集する。	2時間
事後学修	質疑応答をもとに先行論と参考資料の精査, 整理を行う。 質疑応答をもとに加えるべき先行論と参考資料を調査収集する。	2時間
8. 文献の再調査 その 3		
事前学修	研究論文に組み込む先行論と参考資料の概要と一覧をまとめる。 加えるべき先行論と参考資料を調査収集する。	2時間
事後学修	質疑応答をもとに先行論と参考資料の精査, 整理を行う。 質疑応答をもとに加えるべき先行論と参考資料を調査収集する。	2時間
9. 論文作成 その 1		
事前学修	研究論文に組み込む論文を作成する。	2時間
事後学修	質疑応答をもとに論文を修正加筆する。	2時間
10. 論文作成 その 2		
事前学修	研究論文に組み込む論文を作成する。	2時間
事後学修	質疑応答をもとに論文を修正加筆する。	2時間
11. 論文作成 その 3		
事前学修	研究論文に組み込む論文を作成する。	2時間
事後学修	質疑応答をもとに論文を修正加筆する。	2時間
12. 論文作成 その 4		
事前学修	研究論文に組み込む論文を作成する。	2時間
事後学修	質疑応答をもとに論文を修正加筆する。	2時間
13. 論文作成 その 5		
事前学修	研究論文に組み込む論文を作成する。	2時間
事後学修	質疑応答をもとに論文を修正加筆する。	2時間
14. 論文への評価・再検討 その 1		
事前学修	研究論文全体を再考する。	2時間
事後学修	質疑応答をもとに論文を修正加筆する。	2時間
15. 論文への評価・再検討 その 2 論文提出		
事前学修	研究論文全体を再考する。	2時間
事後学修	質疑応答をもとに論文を修正加筆する。	2時間

試験等 博士論文の提出
試験のフィードバックの方法 各自の発表に対して授業内でコメントを述べるが、必要に応じて個人的にフィードバックする。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業内で適宜指示する。
オフィスアワー 火曜日4限
連絡先 nagahara@m.ndsu.ac.jp
留意事項 数多くの文献を読みこなすこと。

近世近代文学課題研究I		単位数	2単位
授業コード	D1160	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	山根 知子		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	日本文学Ⅱ		
本授業の概要			
学生個人の主体的な問題意識や学生の希望する研究課題に、指導教員が助言しながら、集中的、焦点的に取り組む研究の場である。課題に対して、指導の徹底と研究の深化を図ることによって、博士論文作成の助言と指導を行う。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	博士論文を作成することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	作成された論文等の達成度によって判断する。	1	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 博士論文作成計画 その1			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間	
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	
2. 博士論文作成計画 その2			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間	
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	
3. テキスト分析 その1			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間	
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	
4. テキスト分析 その2			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間	
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	
5. テキスト分析 その3			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間	
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	

6. 文献調査 その 1		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間
7. 文献調査 その 2		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間
8. 文献調査 その 3		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間
9. 論文作成 その 1		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間
10. 論文作成 その 2		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間
11. 論文作成 その 3		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間
12. 論文作成 その 4		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間
13. 論文作成 その 5		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間
14. 論文への評価・検討 その 1		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間
15. 論文への評価・検討 その 2 論文提出		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間

試験等 論文提出
試験のフィードバックの方法 授業中にフィードバックする。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に適宜紹介する。
オフィスアワー 火曜日2時限。メールでの質問・相談を随時受け付ける。面談希望の場合には、事前に予約を行うこと。
連絡先 t-yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項 数多くの文献を読みこなすこと。

近世近代文学課題研究II		単位数	2単位
授業コード	D1165	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	山根 知子		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	日本文学Ⅱ		
本授業の概要			
学生個人の主体的な問題意識や学生の希望する研究課題に、指導教員が助言しながら、集中的、焦点的に取り組む研究の場である。課題に対して、指導の徹底と研究の深化を図ることによって、博士論文作成の助言と指導を行う。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	博士論文を作成することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	作成された論文等の達成度によって判断する。	1	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 博士論文作成計画の再検討 その1			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間	
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	
2. 博士論文作成計画の再検討 その2			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間	
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	
3. テキスト分析の再検討 その1			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間	
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	
4. テキスト分析の再検討 その2			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間	
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	
5. テキスト分析の再検討 その3			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2 時間	
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2 時間	

6. 文献の再調査 その 1		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
7. 文献の再調査 その 2		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
8. 文献の再調査 その 3		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
9. 論文作成 その 1		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
10. 論文作成 その 2		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
11. 論文作成 その 3		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
12. 論文作成 その 4		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
13. 論文作成 その 5		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
14. 論文への評価・再検討 その 1		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
15. 論文への評価・再検討 その 2 論文提出		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間

試験等 論文提出
試験のフィードバックの方法 授業中にフィードバックする。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に適宜紹介する。
オフィスアワー 木曜日4時限。メールでの質問・相談を随時受け付ける。面談希望の場合には、事前に予約を行うこと。
連絡先 t-yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項 数多くの文献を読みこなすこと。

近世近代文学課題研究I		単位数	2単位
授業コード	D1170	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	山根 道公		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	日本文学Ⅱ		
本授業の概要			
学生個人の主体的な問題意識や学生の希望する研究課題に、指導教員が助言しながら、集中的、焦点的に取り組む研究の場である。課題に対して、指導の徹底と研究の深化を図ることによって、博士論文作成の助言と指導を行う。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	博士論文作成のために、主体的な問題意識をもって、集中的、焦点的に取り組むことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	作成した論文等の達成度によって判断する。	1	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 博士論文作成計画 その1			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間	
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間	
2. 博士論文作成計画 その2			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間	
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間	
3. テキスト分析 その1			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間	
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間	
4. テキスト分析 その2			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間	
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間	
5. テキスト分析 その3			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間	
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間	

6. 文献調査 その 1		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
7. 文献調査 その 2		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
8. 文献調査 その 3		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
9. 論文作成 その 1		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
10. 論文作成 その 2		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
11. 論文作成 その 3		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
12. 論文作成 その 4		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
13. 論文作成 その 5		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
14. 論文への評価・検討 その 1		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
15. 論文への評価・検討 その 2 論文提出		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間

試験等 論文提出
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜指示する。
オフィスアワー 金曜日 12:30-13:00 メールで質問、相談等、随時受け付ける。
連絡先 yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項 数多くの文献を読みこなすこと。

近世近代文学課題研究II		単位数	2単位
授業コード	D1175	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	山根 道公		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	日本文学Ⅱ		
本授業の概要			
学生個人の主体的な問題意識や学生の希望する研究課題に、指導教員が助言しながら、集中的、焦点的に取り組む研究の場である。課題に対して、指導の徹底と研究の深化を図ることによって、博士論文作成の助言と指導を行う。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	博士論文作成のために、主体的な問題意識をもって、集中的、焦点的に取り組むことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	作成した論文等の達成度によって判断する。	1	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. 博士論文作成計画 その1			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間	
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間	
2. 博士論文作成計画 その2			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間	
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間	
3. テキスト分析 その1			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間	
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間	
4. テキスト分析 その2			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間	
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間	
5. テキスト分析 その3			
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間	
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間	

6. 文献調査 その1		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
7. 文献調査 その2		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
8. 文献調査 その3		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
9. 論文作成 その1		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
10. 論文作成 その2		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
11. 論文作成 その3		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
12. 論文作成 その4		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
13. 論文作成 その5		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
14. 論文への評価・検討 その1		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
15. 論文への評価・検討 その2 論文提出		
事前学修	作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。	2時間
事後学修	発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間

試験等 論文提出
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜指示する。
オフィスアワー 金曜日 12:30-13:00 メールで質問、相談等、随時受け付ける。
連絡先 yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項 数多くの文献を読みこなすこと。

日本語学特殊講義I		単位数	2単位
授業コード	D1210	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	尾崎 喜光		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	日本語学		
本授業の概要			
近現代の文学作品の地の文・会話文を対象に、表現の多様性という点に注目し、作品内に現われるそれらの出現傾向について研究する。たとえば、動詞の打消しの助動詞として「～ない」「～ぬ」「～ん」「～ず」等が出現することが期待されるが、それらの出現にどのような傾向が見られるのかを明らかにする。本授業では、受講者と相談の上、特定の作家の5作品を対象に分析する。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	該当表現を抽出してPCに適切に蓄積できる。	知識・技能/主体性	
2	該当表現について分析できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	分析結果を研究レポートとしてまとめることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業内活動：50%	1/2/3	
2	研究レポート：50%	3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回：ガイダンス			
事前学修	シラバスの精読		おおむね1時間
事後学修	研究の検討		おおむね3時間
第2回：作品1の分析対象とする表現についての検討			
事前学修	発表の準備		おおむね3時間
事後学修	研究の再検討		おおむね1時間
第3回：作品1の予備的分析結果の発表と検討			
事前学修	発表の準備		おおむね3時間
事後学修	研究の再検討		おおむね1時間
第4回：作品1の中間的分析結果の発表と検討			
事前学修	発表の準備		おおむね3時間
事後学修	研究の再検討		おおむね1時間
第5回：作品1の最終分析結果の発表と検討、作品2の分析対象とする表現についての検討			
事前学修	発表の準備		おおむね3時間
事後学修	研究の再検討		おおむね1時間

第6回：作品2の予備的分析結果の発表と検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第7回：作品2の中間的分析結果の発表と検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第8回：作品2の最終分析結果の発表と検討、作品3の分析対象とする表現についての検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第9回：作品3の予備的分析結果の発表と検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第10回：作品3の中間的分析結果の発表と検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第11回：作品3の最終分析結果の発表と検討、作品4の分析対象とする表現についての検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第12回：作品4の予備的分析結果の発表と検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第13回：作品4の分析結果の発表と検討、作品5の分析対象とする表現についての検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第14回：作品5の予備的分析結果の発表と検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第15回：作品5の分析結果の発表と検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間

試験等
試験のフィードバックの方法 個別に伝える。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。
オフィスアワー 授業終了後
連絡先 yozaki@m.ndsu.ac.jp
留意事項 PCでの分析、データベースの作成を必須とする。ワード、エクセルを使える環境を整えておくこと。

日本語学特殊講義Ⅰ		【単位数	2単位
授業コード	D1215	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	尾崎 喜光		
時間割備考			
授業形態（主）	2 演習		
授業形態（副）			
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	日本語学		
本授業の概要			
近現代の文学作品の地の文・会話を対象に、表現の多様性という点に注目し、作品内に現われるそれらの出現傾向について研究する。たとえば、動詞の打消しの助動詞として「～ない」「～ぬ」「～ん」「～ず」等が出現することが期待されるが、それらの出現にどのような傾向が見られるのかを明らかにする。本授業では、特定の作家の5作品を対象に分析する（「日本語学特殊講義Ⅰ」の続き）。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	該当表現を抽出してPCに適切に蓄積できる。	知識・技能/主体性	
2	該当表現について分析できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	分析結果を研究レポートとしてまとめることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業内活動：50%	1/2/3	
2	研究レポート：50%	3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回：ガイダンス			
事前学修	シラバスの精読		おおむね1時間
事後学修	研究の検討		おおむね3時間
第2回：作品6の分析対象とする表現についての検討			
事前学修	発表の準備		おおむね3時間
事後学修	研究の再検討		おおむね1時間
第3回：作品6の予備的分析結果の発表と検討			
事前学修	発表の準備		おおむね3時間
事後学修	研究の再検討		おおむね1時間
第4回：作品6の中間的分析結果の発表と検討			
事前学修	発表の準備		おおむね3時間
事後学修	研究の再検討		おおむね1時間
第5回：作品6の最終分析結果の発表と検討、作品7の分析対象とする表現についての検討			
事前学修	発表の準備		おおむね3時間
事後学修	研究の再検討		おおむね1時間

第6回：作品7の予備的分析結果の発表と検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第7回：作品7の中間的分析結果の発表と検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第8回：作品7の最終分析結果の発表と検討、作品8の分析対象とする表現についての検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第9回：作品8の予備的分析結果の発表と検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第10回：作品8の中間的分析結果の発表と検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第11回：作品8の最終分析結果の発表と検討、作品9の分析対象とする表現についての検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第12回：作品9の予備的分析結果の発表と検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第13回：作品9の分析結果の発表と検討、作品10の分析対象とする表現についての検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第14回：作品10の予備的分析結果の発表と検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第15回：作品10の分析結果の発表と検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間

試験等
試験のフィードバックの方法 個別に伝える。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。
オフィスアワー 授業終了後
連絡先 yozaki@m.ndsu.ac.jp
留意事項 PCでの分析、データベースの作成を必須とする。ワード、エクセルを使える環境を整えておくこと。

日本語学特殊講義V		単位数	2単位
授業コード	D1230	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	瀬間 正之		
時間割備考	2024年度入学まで 9/1(月)~9/3(水)		
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	日本語学		
本授業の概要			
本授業では、音節構造もシンタクスも異なる古代中国語を表記するために発明された漢字を用いて、どのようにノル・カタル・ウタフという言語表現を表記していったかを考察する。 資料としては、百済・新羅・倭の金石文・木簡、及び文献資料としては、祝詞・万葉集・古事記・日本書紀・風土記を用いるが、これらに影響を与えた漢籍・仏典も随時利用する。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	漢字資料の読解能力を向上させることができる。	知識・技能	
2	上代資料読解能力を向上させることができる。	知識・技能	
3	漢文と上代文献の読解力に応じて、みずから主体的に問題点を設定し論文のテーマとすることができる。	思考・判断・表現力	
4			
5		思考・判断・表現力	
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業中の文献読解 50%	1	
2	授業中の質疑応答 50%	2	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
国語表記の開発1 金石文			
事前学修	古代の金石文について調べておく	二時間	
事後学修	授業で読解した資料の確認	二時間	
国語表記の開発2 木簡			
事前学修	古代の木簡について調べておく	二時間	
事後学修	授業で読解した資料の確認	二時間	
国語表記の開発3 万葉集			
事前学修	万葉集の表記について調べておく	二時間	
事後学修	授業で読解した資料の確認	二時間	
国語表記の開発4 万葉集2			
事前学修	前回の授業での指示に従って調査	二時間	
事後学修	授業で読解した資料の確認	二時間	
国語表記の開発5 古事記1			
事前学修	前回の授業での指示に従って調査	二時間	
事後学修	授業で読解した資料の確認	二時間	

国語表記の開発6 古事記2		
事前学修	前回の授業での指示に従って調査	二時間
事後学修	授業で読解した資料の確認	二時間
国語表記の開発7 古事記3		
事前学修	前回の授業での指示に従って調査	二時間
事後学修	授業で読解した資料の確認	二時間
国語表記の開発8 祝詞		
事前学修	前回の授業での指示に従って調査	二時間
事後学修	授業で読解した資料の確認	二時間
国語表記の開発9 宣命		
事前学修	前回の授業での指示に従って調査	二時間
事後学修	授業で読解した資料の確認	二時間
国語表記の開発10 風土記1		
事前学修	前回の授業での指示に従って調査	二時間
事後学修	授業で読解した資料の確認	二時間
国語表記の開発11 風土記2		
事前学修	前回の授業での指示に従って調査	二時間
事後学修	授業で読解した資料の確認	二時間
国語表記の開発12 風土記3		
事前学修	前回の授業での指示に従って調査	二時間
事後学修	授業で読解した資料の確認	二時間
国語表記の開発13 日本書紀1		
事前学修	前回の授業での指示に従って調査	二時間
事後学修	授業で読解した資料の確認	二時間
国語表記の開発14 日本書紀2		
事前学修	前回の授業での指示に従って調査	二時間
事後学修	授業で読解した資料の確認	二時間
国語表記の開発15 日本書紀3		
事前学修	前回の授業での指示に従って調査	二時間
事後学修	授業で読解した資料の確認	二時間

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー 授業終了後に教室で質問を受け付ける。もしくはメールにて行う。
連絡先 m-sema@sophia.ac.jp
留意事項 研究者としての自覚をもって授業に臨むこと。

日本語学課題研究I		【単位数】	2単位
授業コード	D1240	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	尾崎 喜光		
時間割備考			
授業形態（主）	2 演習		
授業形態（副）			
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	日本語学		
本授業の概要			
本授業では、博士論文作成に向け、各自の問題意識や研究課題について集中的・焦点的に発表と検討を行う。また、分析データを得るための本調査をめざした予備調査を行い、その結果について討議する。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	予定する博士論文作成のために必要な予備調査（データ収集）ができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	関連文献を精読し適切な評価と自身の研究への位置づけができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	上記の作業を通じて博士論文作成に着手できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業活動内容：50%	1/2/3	
2	研究レポート：50%	1/2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回：ガイダンス			
事前学修	発表の準備	おおむね1時間	
事後学修	研究の再検討	おおむね3時間	
第2回：研究の方向性に関する討議			
事前学修	発表の準備	おおむね2時間	
事後学修	研究の再検討	おおむね2時間	
第3回：研究の方向性（修正案）に関する討議			
事前学修	発表の準備	おおむね3時間	
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間	
第4回：関連文献の発表と討議（1）			
事前学修	発表の準備	おおむね3時間	
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間	
第5回：関連文献の発表と討議（2）			
事前学修	発表の準備	おおむね5時間	
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間	

第6回：研究方法に関する討議（1）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第7回：研究方法に関する討議（2）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第8回：関連文献の発表と討議（3）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第9回：関連文献の発表と討議（4）		
事前学修	発表の準備	おおむね9時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第10回：予備調査の結果に関する討議（1）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第11回：予備調査の結果に関する討議（2）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第12回：関連文献の発表と討議（5）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第13回：関連文献の発表と討議（6）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第14回：本調査に向けての討議（1）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第15回：本調査に向けての討議（2）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間

試験等 レポート
試験のフィードバックの方法 授業後に個別に伝える。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。
オフィスアワー 授業終了後
連絡先 yozaki@m.ndsu.ac.jp
留意事項 授業の一部でPCを用いてデータベースを作成する。データベースの作成にあたっては、授業時間以外の時間も使う必要がある。

日本語学課題研究II		【単位数】	2単位
授業コード	D1245	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	尾崎 喜光		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	日本語学		
本授業の概要			
本授業では、博士論文作成に向け、各自の問題意識や研究課題について集中的・焦点的に発表と検討を行う。また、本調査に着手し、中間結果について討議する。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	予定する博士論文作成のために必要な予備調査(データ収集)ができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	関連文献を精読し適切な評価と自身の研究への位置づけができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	上記の作業を通じて博士論文作成に着手できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業活動内容: 50%	1/2/3	
2	研究レポート: 50%	1/2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回: ガイダンス			
事前学修	発表の準備		おおむね3時間
事後学修	研究の再検討		おおむね1時間
第2回: 本調査に向けての調整(夏季休暇の間の検討をふまえて)			
事前学修	発表の準備		おおむね3時間
事後学修	研究の再検討		おおむね1時間
第3回: 本調査の中間結果についての発表と討議(1)			
事前学修	発表の準備		おおむね3時間
事後学修	研究の再検討		おおむね1時間
第4回: 本調査の中間結果についての発表と討議(2)			
事前学修	発表の準備		おおむね3時間
事後学修	研究の再検討		おおむね1時間
第5回: 本調査の中間結果についての発表と討議(3)			
事前学修	発表の準備		おおむね3時間
事後学修	研究の再検討		おおむね1時間

第6回：本調査の中間結果についての発表と討議（4）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第7回：本調査のデータの示し方についての発表と討議（1）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第8回：本調査のデータの示し方についての発表と討議（2）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第9回：関連文献の追加発表と討議（1）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第10回：関連文献の追加発表と討議（2）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第11回：本調査の結果の発表と討議（1）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第12回：本調査の結果の発表と討議（2）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第13回：学会発表に向けての討議（1）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第14回：学会発表に向けての討議（2）		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間
第15回：2年次以降の博士論文作成に向けての検討		
事前学修	発表の準備	おおむね3時間
事後学修	研究の再検討	おおむね1時間

試験等 レポート
試験のフィードバックの方法 授業後に個別に伝える。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。
オフィスアワー 授業終了後
連絡先 yozaki@m.ndsu.ac.jp
留意事項 授業の一部でPCを用いてデータベースを作成する。データベースの作成にあたっては、授業時間以外の時間も使う必要がある。

日本思想史特殊講義I		【単位数	2単位
授業コード	D1310	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	本村 昌文		
時間割備考			
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	関連		
本授業の概要			
日本思想史上における重要なテーマをいくつか取り上げ、そのテーマに関する講義を行った後、関連する研究文献を受講者が選択し、内容をまとめて発表・質疑応答を行う。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本思想史研究において重要なテーマを把握し、説明することができる。	知識・技能	
2	重要な研究文献（論文、研究書）の内容を的確にまとめ、問題点を指摘することができる。	思考・判断・表現力	
3	他者の発表を理解し、的確な質問をすることができる。また、質問に対して適切な応答をすることができる。	思考・判断・表現力	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業での取り組み60%	1/2/3	
2	最終レポート40%	1/2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回 ガイダンス			
事前学修	論文を読み、内容や疑問点をまとめる。	2時間	
事後学修	自分の発表テーマを検討する。	2時間	
第2回 日本思想史の研究手法①（講義）			
事前学修	関連する論文を読む。	2時間	
事後学修	授業であらたに学んだことを整理する。	2時間	
第3回 日本思想史の研究手法②（演習）			
事前学修	発表の準備を行う。	2時間	
事後学修	質疑応答をもとに発表内容を修正する。	2時間	
第4回 日本思想史の研究手法③（演習）			
事前学修	発表の準備をする。	2時間	
事後学修	質疑応答をもとに、発表内容を修正する。	2時間	
第5回 神と仏の関係①（講義）			
事前学修	関連する論文を読む。	2時間	
事後学修	授業で学んだあらたなことを整理する。	2時間	

第6回 神と仏の関係②（演習）		
事前学修	発表の準備をする。	2時間
事後学修	質疑応答をもとに、発表内容を修正する。	2時間
第7回 神と仏の関係③（演習）		
事前学修	発表の準備をする。	2時間
事後学修	質疑応答をもとに、発表内容を修正する。	2時間
第8回 儒教と仏教の論争①（講義）		
事前学修	関連する論文を読む。	2時間
事後学修	授業で学んだあらたなことを整理する。	2時間
第9回 儒教と仏教の論争②（演習）		
事前学修	発表の準備をする。	2時間
事後学修	質疑応答をもとに、発表内容を修正する。	2時間
第10回 儒教と仏教の論争③（演習）		
事前学修	発表の準備をする。	2時間
事後学修	質疑応答をもとに、発表内容を修正する。	2時間
第11回 日本思想史における「死」①（講義）		
事前学修	関連する論文を読む。	2時間
事後学修	授業であらたに学んだことを整理する。	2時間
第12回 日本思想史における「死」②（演習）		
事前学修	発表の準備をする。	2時間
事後学修	質疑応答をもとに、発表内容を修正する。	2時間
第13回 日本思想史における「死」③（演習）		
事前学修	発表の準備をする。	2時間
事後学修	質疑応答をもとに、発表内容を修正する。	2時間
第14回 自分の研究テーマに関連する論文をまとめて発表する（演習）		
事前学修	発表の準備をする。	2時間
事後学修	質疑応答をもとに、発表内容を修正する。	2時間
第15回 まとめ		
事前学修	これまでの授業で学んだことを整理する。	2時間
事後学修	授業全体の振り返りを行う。	2時間

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜、プリントなどを配布する。 参考文献：『日本思想史講座』1巻～5巻（ペリかん社）、『岩波講座日本の思想』1巻～8巻（岩波書店）。
オフィスアワー 授業の前後
連絡先 tomtom@okayama-u.ac.jp
留意事項 自分の研究テーマと関連させながら考える意識をもつようにする。

日本思想史特殊講義II		単位数	2単位
授業コード	D1315	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	本村 昌文		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	関連		
本授業の概要			
日本思想史に関連する資料講読を行う。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本思想史研究に必要な知識を会得する。	知識・技能	
2	的確な現代日本語訳をすることができる。	思考・判断・表現力	
3	関連する史料にあたり、内容理解を深めることができる。	思考・判断・表現力	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業での取り組み60%	1/2/3	
2	最終レポート40%	1/2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
第1回 ガイダンス			
事前学修	研究テーマに関連する論文などの整理、関連資料の調査。	2時間	
事後学修	授業であらたに学んだことを整理する。	2時間	
第2回 日本思想史とは何か			
事前学修	日本思想史に関連する論文を読む。	2時間	
事後学修	授業であらたに学んだことを整理する。	2時間	
第3回 資料講読①			
事前学修	関連する論文を読む、現代語訳を行う。	2時間	
事後学修	授業で扱った箇所の復習。	2時間	
第4回 資料講読②			
事前学修	事前に現代語訳を行う。参考資料を探す。	2時間	
事後学修	授業で扱った箇所の復習。	2時間	
第5回 資料の講読③			
事前学修	事前に現代語訳を行う。参考資料を探す。	2時間	
事後学修	授業で扱った箇所の復習。	2時間	

第6回 資料講読④		
事前学修	事前に現代語訳を行う。参考資料を探す。	2時間
事後学修	授業で扱った箇所の復習。	2時間
第7回 資料講読⑤		
事前学修	事前に現代語訳を行う。参考資料を探す。	2時間
事後学修	授業で扱った箇所の復習。	2時間
第8回 資料講読⑥		
事前学修	関連する1次資料を読む、参考文献を探す。	2時間
事後学修	授業で扱った箇所の復習。	2時間
第9回 資料講読⑦		
事前学修	事前に現代語訳を行う。参考資料を探す。	2時間
事後学修	授業で扱った箇所の復習。	2時間
第10回 資料講読⑧		
事前学修	事前に現代語訳を行う。参考資料を探す。	2時間
事後学修	授業で扱った箇所の復習。	2時間
第11回 資料講読⑨		
事前学修	事前に現代語訳を行う。参考資料を探す。	2時間
事後学修	授業で扱った箇所の復習。	2時間
第12回 資料講読⑩		
事前学修	事前に現代語訳を行う。参考資料を探す。	2時間
事後学修	授業で扱った箇所の復習。	2時間
第13回 資料講読⑪		
事前学修	事前に現代語訳を行う。参考資料を探す。	2時間
事後学修	授業で扱った箇所の復習。	2時間
第14回 資料講読⑫		
事前学修	事前に現代語訳を行う。参考資料を探す。	2時間
事後学修	授業で扱った箇所の復習。	2時間
第15回 まとめ		
事前学修	授業で扱ったすべての箇所を整理する。	2時間
事後学修	授業全体を振り返り、自分のテーマを深める。	2時間

試験等
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜、プリントなどを配布する。
オフィスアワー 授業の前後
連絡先 tomtom@okayama-u.ac.jp
留意事項 自分の研究テーマと関連させながら考える意識をもつようにする。

キリスト教思想史特殊講義I		単位数	2単位
授業コード	D1340	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第1期
担当者氏名	袴田 渉		
時間割備考	日程は別途指示する		
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	関連		
本授業の概要			
古代地中海世界に生まれ、ヨーロッパを経由して近代日本の文化・制度形成に深甚な影響を与えたキリスト教思想の歴史を学ぶ。第1期はキリスト教思想の基礎となる聖書の読解を中心に、必要に応じて近代日本や英米文学にも言及する。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	キリスト教思想の重要な概念と学説を理解し、説明することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	キリスト教思想史の研究法論を身につけ、自身の研究課題に応用することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	キリスト教思想史研究の現代的意義を理解し、研究を通して得られた知見を社会に還元し他者に貢献する意欲をもつことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業への参加態度 (30%)	1/2/3	
2	リアクションペーパー (20%)	1/2/3	
3	期末レポート (50%)	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1 イン트로ダクション			
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間	
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間	
2 キリスト教の歴史的背景			
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間	
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間	
3 聖書読解 (1) 天地創造			
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間	
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間	
4 聖書読解 (2) 二つの創造			
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間	
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間	
5 聖書読解 (3) アブラハムの物語			
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間	
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間	

6 聖書読解 (4) イスラエルの誕生		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
7 聖書読解 (5) モーセと出エジプト		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
8 聖書読解 (6) 十戒		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
9 旧約から新約へ		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
10 新約聖書の全体像		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
11 聖書読解 (7) イエスの物語		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
12 聖書読解 (8) 主の祈り		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
13 聖書読解 (9) 教会の誕生		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
14 聖書読解 (10) 黙示録		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
15 まとめ		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き／／日本聖書協会／3600／9784820213451／冊子版
〈参考書〉
・上智大学中世思想研究所監訳『キリスト教史』1～3, 平凡社ライブラリー, 1996年. ・K・リーゼンフーバー『西洋古代・中世哲学史』平凡社ライブラリー, 2000年.
オフィスアワー
メールでの回答のほか、授業終了後に教室で質問を受け付ける
連絡先
hakamada@nanzan-u.ac.jp
留意事項
本授業では、教員による講義に終始せず、場合により演習形式も取り入れる。

キリスト教思想史特殊講義II		単位数	2単位
授業コード	D1345	科目ナンバリング	開講年度学期 2025年度第2期
担当者氏名	袴田 渉		
時間割備考	日程は別途指示する		
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	関連		
本授業の概要			
古代地中海世界に生まれ、ヨーロッパを経由して近代日本の文化・制度形成に深甚な影響を与えたキリスト教思想の歴史を学ぶ。第2期は古代末期から中世に到るキリスト教思想史の展開を、具体的な歴史的事象とそれがもたらした文化をめぐって考察し、必要に応じて近代日本や英米文学にも言及する。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	キリスト教思想の重要な概念と学説を理解し、説明することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	キリスト教思想史の研究法論を身につけ、自身の研究課題に応用することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	キリスト教思想史研究の現代的意義を理解し、研究を通して得られた知見を社会に還元し他者に貢献する意欲をもつことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業への参加態度 (30%)	1/2/3	
2	リアクションペーパー (20%)	1/2/3	
3	期末レポート (50%)	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1 イン트로ダクション			
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間	
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間	
2 迫害を越えて：ローマ帝国とキリスト教			
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間	
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間	
3 三位一体論			
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間	
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間	
4 キリスト論			
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間	
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間	
5 修道制の誕生			
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間	
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間	

6 修道規則の成立		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
7 西方の修道制		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
8 国教化と東西分離		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
9 シスマと十字軍		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
10 キリスト教文化 (1) クリスマス		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
11 修道院の時代		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
12 ローマ・カトリック教会		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
13 宗教改革		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
14 キリスト教文化 (2) 聖人崇敬		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
15 まとめ		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き／／日本聖書協会／3600／9784820213451／冊子版
〈参考書〉
・上智大学中世思想研究所監訳『キリスト教史』1～3, 平凡社ライブラリー, 1996年. ・K・リーゼンフーバー『西洋古代・中世哲学史』平凡社ライブラリー, 2000年.
オフィスアワー
メールでの回答のほか、授業終了後に教室で質問を受け付ける
連絡先
hakamada@nanzan-u.ac.jp
留意事項
本授業では、教員による講義に終始せず、場合により演習形式も取り入れる。